出前講座を依頼するにはどうしたらいいの？

Step 1 講座の依頼 ⇒ 講座実施予定日よりも1ヶ月以上前に依頼してください。

＊講座を行うまでの準備過程がありますので、依頼が1ヶ月を切った場合は十分な対応ができない可能性もあります。

Step 2 事前打合せ及び会場下見 ⇒ 講座実施予定日1ヶ月前頃に実施します。

＊担当者と出前講座のスタッフで顔合わせと打合せを行います。

Step 3 プログラム作成 ⇒ 事前打合せシートを基にプログラム(案)を作成します。

Step 4 プログラム提案 ⇒ プログラム(案)を担当者にお送りし、内容について調整を行います。

プログラム再考 ： 必要に応じプログラムを再考し、再度提案します。

Step 5 講座実施当日 ⇒ 会場準備のため、約1時間前に会場入りする予定です。

※準備や調整に時間を要する為、月2団体を目安に対応させていただきます。

出前講座の前に勉強しておくことはありますか？

福祉教育(学習)を進めるに当たっては、事前・事後の学習を別に実施し、講座を実施することがなぜ必要なのか、講座での学びを今後どのように活かすことができるのかまで学習が深められることが理想です。ボランティアセンターでは、カリキュラムの組み方についてのアドバイスもさせて頂きますので、お気軽にご相談ください。

例えば・・・

調べ学習

福祉DVD鑑賞

街探検

申込・問合せ先
市原市ボランティアセンター　☎ 20－3100

ともに生きる力を育む福祉共育
心のバリアフリー出前講座
利用ガイド

2026年度版

市原市社会福祉協議会
ボランティアセンター

市原市バリアフリーワーキング市民グループ
ろうあ協会

福祉共育（福祉教育）ってなあに？？

福祉教育は、「心の教育」です。一人ひとりが違うことを理解し、違うがゆえに一人ひとりが尊重されなければならないという理念に立って、「違うことは素晴らしい」「違っていいんだ」という気持ちを醸成しながら、全ての人と共に生きていくことの大切さを理解し、他者のためにできることを主体的に考え、行動する力を育むことを目指しています。

どんなプログラムがあるの？？

所要時間:90分～120分（1体験につき）　（時間によって①～⑤を組み合わせて実施も可能）

考えや想いを直接聞いたり、同じ状況に身を置いてみることで他者理解を促し、他者を思いやる行動ができることを目指すプログラムを主に展開しています。

①ボランティアとは

「ボランティア」とは何かといった概念から、活動内容、活動における注意事項等を講義形式で学ぶ

参加者の声
自分たちにも出来そうな活動があったので、挑戦してみようと思います。

②車いす体験

足の不自由な方が利用する車いすの操作方法を学んだり、車いすに実際に乗って車いすを利用している方の気持ちを理解する

参加者の声
車いすを押す人の大変さもわかりました。

③アイマスク体験

アイマスク等で目を隠し、目の不自由な状況の中歩行してみることで目の不自由な方の気持ちを理解する他、目の不自由な方のガイドの仕方を学ぶ

参加者の声
点字ブロックは目の不自由な人たちには大切なものだと思いました。

④高齢者擬似体験

高齢者と同じような状況を装具等装着することで作りだし、普段の生活の一部や歩行を実際にしてみることで、高齢者の気持ちに寄添う体験をする

参加者の声
人の優しさ、温かさを分かち合える気がしました。

⑤聴覚障がいについて（手話体験）

「聴覚障がい」についての講話や手話やゲームを通じ学び、耳の不自由な方の気持ちに寄添う体験をする

参加者の声
手話が出来なくても、いろいろな方法でコミュニケーションが取れるということがわかりました。

その他にも、社会福祉法人と連携して

- ○職業講話
- ○職場体験
- ○当事者講話　etc

「市原市ボランティアセンター」では、「市原市バリアフリーワーキング市民グループ」・「ろうあ協会」・「地域関係者」等と連携し福祉教育を実施しております。